



ライフプラン & マネープラン

新NISAとiDeCo 賢い使い分けは？

NISA(ニーサ)もiDeCo(イデコ)も資産形成に役立つ制度で、どちらも優遇税制があり、ライフプラン実現のためのお金を効率的に育てられるのが魅力です。併用して使えるので違いを理解し、上手に使い分けてみましょう。



1

使い勝手の良いNISAと老後に備えるiDeCo

NISA(少額投資非課税制度)は、2024年1月から新しく使いやすくなりました。「つみたて投資枠」は年間120万円まで投資でき、投資対象は長期・積立・分散投資に適した投資信託に限定され、時間を味方にコツコツ資産形成したい人向けです。「成長投資枠」は年間240万円まで、投資信託や株式など広範な投資対象から選べ、まとまった資金で積極的に運用したい場合に適しています。通常、運用利益には約20%の税金がかかりますが、NISAでは非課税になるため、効率的に資産を増やせます。

iDeCo(個人型確定拠出年金)は、自分で将来の年金をつくれる制度です。職業により毎月掛けられる額が異なりますが、原則60歳まで積み立て、その後給付金を受け取ります。途中で引き出せない点に注意が必要ですが、着実に老後資金を準備できるといえます。運用商品の種類は金融機関により異なり、NISAより選択肢が限られます。また、節税効果に優れ、「積立時」は掛金の全額が所得控除の対象、「運用中」は運用益が非課税、「受取時」は課税対象ですが退職所得控除や公的年金等控除が適用されます。

図表1 NISAとiDeCoの比較

	NISA		iDeCo
	つみたて投資枠	成長投資枠	
	少額投資非課税制度		私的年金制度
対象年齢	18歳以上		原則20~60歳
年間投資枠	120万円	240万円	※職業や企業年金の有無で異なる。 自営業者等：81.6万円 会社員・公務員等： 14.4万~27.6万円 専業主婦(夫)：27.6万円
	併用可(合わせて360万円まで)		
非課税保有限度額	1,800万円 (成長投資枠は1,200万円まで)		なし
投資対象	長期・積立・分散投資に適した一定の投資信託	上場株式・投資信託・ETFなど	投資信託・定期預金・保険など
買付方法	積立	積立一括(都度)	積立
資金の引き出し	いつでも可能		60歳以降(60歳まで原則不可)
優遇税制	購入時 拠出時	—	掛金の全額が所得控除の対象
	運用中	運用益が非課税	運用益が非課税
	引出時	運用益が非課税	一括受取：退職所得控除の対象 年金受取：公的年金等控除の対象

2

大きな違いは「引き出し」の自由度

2つの大きな違いは「途中で引き出せるか」です。NISAはいつでも引き出せますが、iDeCoは原則60歳まで引き出せません。収入があり老後資金を目的とするなら、節税効果の高いiDeCoを優先し、さらに余裕がある場合や60歳前に使う資金にはNISAを活用するとよいでしょう。運用目的を明確にし、それぞれの良さを生かす使い分けが大切です。どちらも運用次第で元本割れの可能性があるため、長期的な視点で利用しましょう。

図表2 NISAとiDeCoの使い分け

こんな人は NISAがおすすめ！	こんな人は iDeCoがおすすめ！
<ul style="list-style-type: none"> • たくさんの投資対象から選びたい。 • 購入や引き出しのタイミングは自由がいい。 • 効率的に運用したいが、途中で引き出しできないのは不安。 	<ul style="list-style-type: none"> • 老後資金を確実に作りたいたい。 • ある程度資金があるので、60歳まで引き出せなくても問題ない。 • 収入があり、所得控除の恩恵を受けたい。